

# 気候変動に適応した主要露地野菜の栽培体系確立

## 1 目的

近年の気候変動により従来の作期では、野菜の露地栽培が気候と合わなくなってきた。そこで、主要露地野菜品目について、現状の気候条件に適応する新しい作型、品種、栽培方法について検討する。

## 2 研究計画・試験方法等(その1)

### 1) 作期変動への適応策

- a 寒締めホウレンソウ  
播種時期の晩化と適応品種の検討
- b ゆきな  
播種時期の晩化と被覆資材の検討
- c キャベツ  
播種時期の晩化と適応品種の検討
- d たまねぎ  
直播栽培の播種適期と収量性の検討
- e ブロccoli  
定植時期と適応品種の検討
- f エダマメ  
露地での早熟栽培と抑制栽培を  
組み合わせた二期作の検討
- g セリ  
高需要期出荷(12月) のための  
定植晩限の検討



ちぢみゆきな



秋冬どりキャベツの定植晩限の検討



エダマメ早熟栽培の検討



タマネギの大規模生産のための直播栽培の検討



みやぎオリジナルセリ  
新品種を活用し、高需  
要期に向けた定植時期  
の検討



# 気候変動に適応した主要露地野菜の栽培体系確立

## 2 研究計画・試験方法等(その2)

### 2) 生理的な障害への適応策

#### a ブロccoli花蕾障害

障害発生が少ない品種の選定と定植日，マルチによる障害抑制効果の検討

#### b ホウレンソウ初期生育不良

夏作に適した遮光資材や品種の検討

#### c レタスの抽苔抑制

結球レタスの露地夏どりや秋どり栽培に適した品種の検討

### ブロッコリー花蕾障害



高温障害



高温による不正形花蕾(左)と正常花蕾



雨よけホウレンソウ夏季高温回避のための遮光資材の検討



レタスの高温対策・抽苔回避のためのマルチ資材の検討



地温抑制  
有穴マルチ

